

1. 今年の気温から

4 月下旬～5 月下旬までは高温・多照で推移しましたが、6 月上旬～7 月初旬までは、気温は平年値を下回る状況で推移しました。

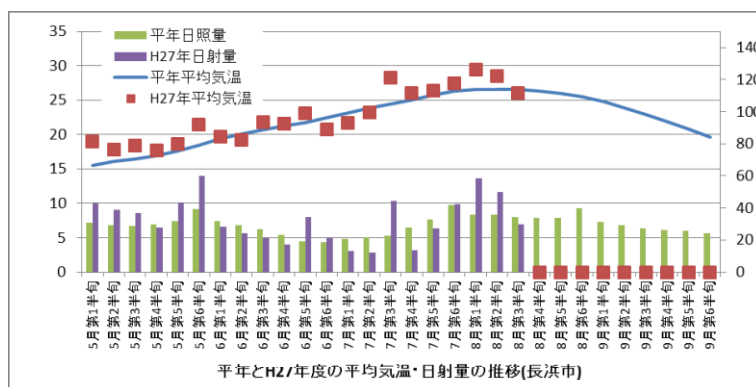
7 月第 3 半旬および 8 月 1 日～10 日は高温・多照となりました。

過去、8 月上旬の高温・日照量は、等級に大きな影響を示さず、8 月中旬以降の気温などにより影響をうけている傾向があります。

H25 年は、高品質年の条件でありながら、除草剤の田植え同時処理の普及、およびこれに関連した病み田の影響を受けた初期生育が悪く一穂粒数が増えるなど等級が悪くなりました。

山田錦の状況は、初期の状況が良くなかったところで茎数不足となっており、初期の肥料の消費が悪いところでは、幼穂形成期まで葉色が濃い目で推移しました。

また、一部でレンゲあとなどで栽培されたところも、草丈が長くなっております。



長浜市（旧虎姫）

2. 病害虫の状況

葉いもちの発生が平年並みでだったことで、一部では穂いもちの被害を受けています。いもち病は、高温になると止まると思われていますが、最低気温でも 28～30℃だと胞子形成適温になり、感染が広まる可能性があります。（高温なのに広まる理由）

周りに穂いもちが出ている場合は、通常風下にあるほ場は感染しやすくなります。

紋枯病の発生が見られます。昨年に引き続き発生が多くなっております。

早植え、短稈品種ほど影響が大きいと言えますが、今後の気象により遅植えでも影響が出るかもしれません。

ほ場をよく観察し、必要に応じて防除しましょう！

収穫中に紋枯病が目立つようなら、次年度に菌核を残さないため、早めにすき込みましょう！

（9月中なら降雨の日でもかまいません。）

イネツトムシ、フタオビコヤガ、ニカメイガにおいては、晩生品種で多発することがあります。

状況に応じて防除が必要になります。

防除においては、出荷先にご相談いただき農薬の容器等の記載内容をご確認下さい。



紋枯病の病斑

3. 今後の管理について

刈り遅れにご注意下さい。

気象予報では、8月中下旬は高温に推移する可能性が高いとなっております。

紋枯病により、登熟が遅れている株がある場合、青籾に誘導され刈り遅れになる可能性があります。収穫の判断は、健全株で行いましょう！



収穫時の判断は、青籾率だけに頼らず籾水分も参考にしましょう！

早生品種では、ほぼ稔っている株の籾水分が25%以下なら収穫の目安と言えますが、刈り遅れる事のないよう、早めから計画的に収穫して下さい。

収穫間際まで、土壌は白乾しないよう、必要に応じて用水を確保しましょう！

酒米は異品種のコンタミが問題となります。ほ場での抜き取りや機械の清掃にご注意下さい。

山田錦の収穫適期も籾水分を基本に考えます。籾水分が25%の時に適期と言えます。

大粒種であることを考慮し、胴割れに注意し、計画的に収穫・乾燥調製をしましょう！

山田錦が倒伏した場合、水につかると発芽しやすくなります。

倒伏の程度によりますが、登熟は遅れるものの、早めに刈の方が脱粒も減ります。

乾燥は最初は通風とし、通風温度は低めとし、減水分率は0.5%/時を守りましょう！

乾燥終了後は放熱し、肌ずれにご注意下さい。

4. 炊飯食味計による食味分析について（お願い）

J A等では近赤外線による食味分析が一般的ですが、物理性や香りなど総合的な判断が出来ます。有機肥料を使うと近赤分析は異常値を示すことがあります。佐々木農研では、炊飯食味計での食味分析を実施しておりますのでご利用下さい。

